平成３０年　新春初詣会

芝周辺の見学

資　料

初詣
芝東照宮

芝公園

芝丸山古墳

伊能忠敬測地遺功表

昼食
更科布屋（付）

増上寺境内
散策

徳川将軍家
墓所見学

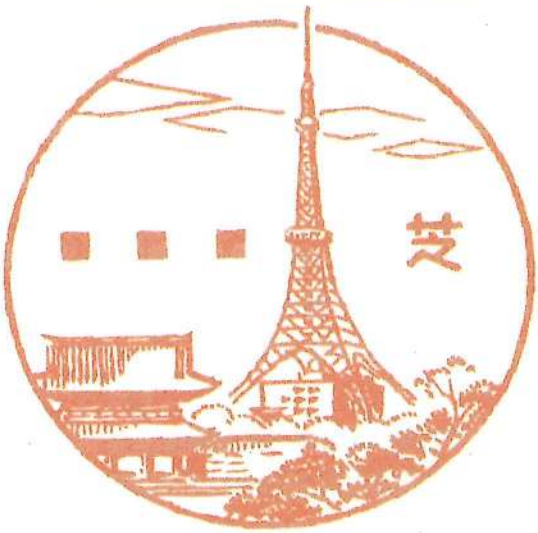
▲ここ、結構歩きます

愛宕神社

NHK
放送博物館

GOAL
解散

集合
START
増上寺三解脱門



▲

【参考】東京タワー展望台ポストから投函すると押される
「風景入り日付印」。東京タワーは今年還暦（戊年生まれ）。
今年３月３日に大展望台がリニューアルオープンの予定

平成 30 年（2018 年）1 月 13 日（土）

まほろば会

【芝】 落語の「芝浜」や「東芝」発祥の地としても有名です。

東京都港区のおよそ東半分を範囲とし、江戸・東京の山手を構成している地域のひとつである。芝は麻布・赤坂・四谷・牛込・小石川・本郷と並ぶ、東京山手の外郭をなすエリアである。概ね東京旧市内で低地に比べ高台を多く占める旧区分を山手としている。そのため旧芝区に属する芝地域は山手にあたる。麻布区及び赤坂区との合併後も住居表示導入以前は「芝〇〇町」と旧芝区内大半の町が芝を冠称していた。現在は町会、警察署や消防署、税務署等の管轄などで当時の区境や町境を継承している。単純に述べると現在の港区の範囲のうち赤坂・青山・麻布・六本木を除くすべての町々が芝地域を指す。 （以上、Wikipedia からの引用）

芝東照宮

芝公園の一角にあり、元来は増上寺内の社殿であった。徳川家康が慶長 6 年（1601 年）に還暦を迎えた記念に自らの像を刻ませた「寿像」を、自身が駿府城に於いて祭祀していた。元和 2 年（1616 年）家康は死去に際して「寿像」を祭祀する社殿を増上寺に建造するよう遺言した。同年 10 月に着工し翌元和 3 年（1617 年）2 月に竣工した。この社殿は家康の法名「安国院殿徳蓮社崇誉道和大居士」より「安国殿」と呼ばれた。これが芝東照宮の起源である。

その後、3 代将軍家光により寛永 10 年（1633 年）に新社殿が造営され、旧社殿は開山堂となった。寛永 18 年（1641 年）には移転改築がなされた。駿府城より移築された惣門、福岡藩主黒田忠之が寄進した鳥居、本殿の周囲に拝殿、唐門、透塀が造営され豪奢な社殿が整った。

明治初期に神仏分離令により、増上寺から切り離されて芝東照宮となった。明治 6 年（1873 年）郷社に列した。本殿は大正 4 年（1915 年）、当時の古社寺保存法に基づき特別保護建造物（現行法の重要文化財に相当）に指定された。しかし、昭和 20 年（1945 年）5 月 25 日の東京大空襲により「寿像」と神木のイチョウを残し、あとは全て焼失した。昭和 44 年（1969 年）現在の社殿が再建された。

（拝殿）

◆「文化財」

- **木造徳川家康坐像(寿像)**:昭和 38 年（1964 年）東京都指定有形文化財。当神社の神体である。（残念ながら見ることはできません）

- **大イチョウ**:昭和 31 年（1956 年）東京都指定天然記念物。徳川家光が植樹したと伝えられる神木。昭和 5 年（1930 年）より昭和 27 年（1952 年）までは文部省指定であったが、文化財保護法の改正により指定解除となった。

◆「例大祭」

桜花爛漫の四月十七日に大祭は行われます。
徳川宗家、諸官庁の御来賓をはじめ神社関係者、法人奉賛会、氏子崇敬者の皆様方百名を超える御参列をお迎えして、毎年賑々しく且つ、厳粛に執り行われます。今が盛りと咲き誇る八重桜の下、境内の特設野点席では表千家柴門会有志の方々によるお茶の接待が行われます。また、芝大神宮伊勢音頭保存会の皆様による伊勢音頭をはじめとした踊りが奉納されます。

（例大祭）

【芝丸山古墳】　港区芝公園内　東京都指定史跡

築造は5世紀中頃過ぎと見られ、墳丘長125m（案内板は106m）という都内では最大級の前方後円墳である。
（都内で100mを超す前方後円墳は大田区多摩川古墳群の亀甲山古墳と宝来山古墳の3つだけ）
墳丘は半壊していたが、後円部墳頂に埋葬施設があったと推定される。
この周辺にはかつて11基の円墳があったが、昭和30年代の大規模開発により姿を消した。今ではすぐ近くの三田にある亀塚古墳が残るのみである。古墳時代には有力な豪族が居たことが推測される。
1893年（明治26年）東京帝大の坪井正五郎の調査により、埴輪や須恵器などの遺物を発見した。
昭和33年には明治大学により墳丘部の測量と発掘調査が行われた。
古墳の裾には貝層や縄文土器、石斧などが発掘された**丸山貝塚**がある。マガキを主体とするが、ハマグリ・バイガイ等22種も出土している。（10数年前には貝殻が広く散在していたという）
このあたりは江戸湾に臨む天然の台地で、縄文時代から人々が住んでいた様子が窺える。

古墳の墳頂部には**「伊能忠敬測地遺功表」**がある。彼が測量の予行演習をしたとされる場所がここである。モニュメントには日本地図と忠敬をたたえる碑文が刻まれている。

古墳の現況写

１号墓からの出土品

芝丸山古墳　実測図（昭和３３年）
明治大学

【芝公園】

日本で最も古い公園の一つ。明治6年の太政官布達によって、上野、浅草、深川、飛鳥山と共に芝の5カ所が、日本で最初の公園として指定され、以後の公園造成のさきがけとなりました。当初は増上寺の境内を含む広い公園でしたが、戦後の政教分離によって境内の部分が除かれ、環状の公園になりました。

園内には、歴史の古い公園らしく、クスノキ、ケヤキ、イチョウなどの大木がところどころにあります。

また、現在、スポーツ施設として、野球場とテニスコートがありますが、芝公園は、明治 35 年に運動器具が備えられ、東京の公園における運動施設の始まりという歴史を持っています。（東京都公園協会ホームページより）

【銀世界】（もとは現在の新宿パークタワー付近の梅の名所）

「絵本江戸土産」より「銀世界」

今の銀世界稲荷

もと新宿角筈にあって江戸時代から銀世界と称せられていた梅林を明治41～42年ごろ芝公園に移植したその標示碑です。

【大野伴睦句碑】（1890年（明治23年）～1964年（昭和39年）、俳号は「万木」）

大野伴睦は、下高輪町に在住し、自由民主党副総裁も勤めた政治家。丸山西頂部にある句碑は昭和 38 年 6 月調理師法施工5周年にあたって、伴睦が長年調理師会の名誉会長として尽力した労に謝するため贈呈されたものである。

碑には「鐘がなる春のあけぼのゝ増上寺」と刻まれている。（港区観光協会ホームページより）

【伊能忠敬測地居遺功表】今年は伊能忠敬没後 200 年

伊能忠敬の測量の起点となったのが、芝公園近くの高輪の大木戸であった関係で東京地学協会がその功績を顕彰して遺功表を建てました。明治 22 年に高さ 8.58mの青銅製の角柱型のものが設置されましたが、戦災で失われたため、昭和 40 年に現在のものが再建されました。（東京都公園協会ＨＰより）

【昼食】更科布屋（そば）

創業　寛政三年(1791 年)

大門駅の目の前に位置する【更科布屋】。創業 220 年の伝統に培われた格式と技術がお届けする真の江戸蕎麦を自信を持って提供し続けています。江戸より守り続ける更科伝統の重厚な甘口の汁で味わう 15 種類の「更科家伝変わり蕎麦」と「生粉打ち蕎麦（蕎麦粉 100%)」が、江戸の食文化を伝承しています。蕎麦を活かしたオリジナルメニューも人気を呼んでいます。

（「ぐるなび」の紹介記事より抜粋）

増上寺

山号：三縁山　　宗派：浄土宗　　寺格：大本山　　本尊：阿弥陀如来
創建年：明徳４年（１３９３年）　開祖：　聖聰（しょうそう）

大門（正式には総門）

三解脱門（三門）

９世紀、空海の弟子・宗叡が武蔵国貝塚（今の千代田区紀尾井町あたり）に建立した光明真言宗光明寺が前身という。室町時代の明徳４年（１３９３年）聖聰が浄土宗に改宗，寺号を増上寺とした。

中世以降、徳川家の菩提寺となるが、その経緯は通説としては天正１８年（１５９０年)、徳川家康が江戸入府の折、たまたま増上寺を訪れ、関係をもったのが菩提寺となるきっかけだったと言われている。

慶長３年（１５９８年）江戸城の拡張に伴い家康によって現在地に移転した。風水学的には、寛永寺を江戸の鬼門である上野に配し、裏鬼門の芝の抑えに増上寺を移したものと考えられる。

現在、増上寺は浄土宗の七大本山の一つである。

＊浄土宗の本山＊
総本山：知恩院（京都市）
大本山：増上寺（東京・芝)、金戒光明寺（こんかいこうみょうじ、京都市）知恩寺（京都市）
　　清浄華院（せいじょうけいん、京都市)、善導寺（ぜんどうじ、久留米市）
　　光明寺（こうみょうじ　鎌倉市)、善光寺大本願（長野市）

＊こんな話も・・？？
元禄１４年（１７０１年）３月に江戸下向した勅使が増上寺を参詣するのをめぐって畳替をしなければならないところ、高家の吉良義央が勅使饗応役の浅野長矩に畳替の必要性を教えず、これが３月１４日の江戸城松の廊下での刃傷事件の引き金の一つになったという・・・浅野家の江戸在の堀部安兵衛らが、江戸中の畳職人を集め、一夜にして書院の何百畳もの表替えをしたとか・・・？？
ご存知「忠臣蔵」の物語の一節です。

＊徳川将軍家の菩提寺は２つ・・・浄土宗大本山　増上寺
東叡山　　寛永寺

増上寺が徳川将軍家の菩提寺となった後、「南光坊天海」という識学豊富な天台宗の僧侶が家康に接近し、重用され、家康没後は朝廷に働きかけ、家康に「東照大権現」の号を授与させたりしました。天海は二代将軍秀忠。三代将軍家光からも寵愛され徳川幕府内で絶大な力を持つようになり、その天海の勧めで寛永２年（１６２５年）、創建されたのが寛永寺です。三代将軍家光は自分の葬儀は寛永寺に行わせ，遺骸は家康の廟がある日光に移すようにと遺言。その後、四代家綱、五代綱吉の廟は寛永寺に営まれ、寛永寺は増上寺とともに徳川将軍家の菩提寺になりました。

その後、六代家宣の廟が増上寺に造営されて以降、歴代将軍の墓所は寛永寺と増上寺に交代で造営することが慣例となり、幕末まで続きました。

増上寺		寛永寺	
・二代	秀忠	・四代	家綱
・六代	家宣	・五代	綱吉
・七代	家継	・八代	吉宗
・九代	家重	・十代	家治
・十二代	家慶	・十一代	家斉
・十四代	家茂	・十三代	家定

＊初代家康は日光東照宮、三代家光は日光山輪王寺

十五代　慶喜　は大政奉還後、一華族となったので、「将軍」として
亡くなることができなかった。→谷中墓地に埋葬。

国指定重要文化財

三解脱門（さんげだつもん　三門）

元和元年（１６２２年）に建立、戦災を免れた、江戸時代初期に大造営された当時の面影を残す数少ない建造物。この門をくぐると三つの煩悩、すなわち「むさぼり」「いかり」「おろかさ」から解脱できるとされる。建築様式は、重層で各層に屋根が付く二重門、入母屋造漆塗。唐様中心とし、さらに和様の勾欄などを加味した和唐折衷の美しさを見せる。
内部には釈迦三尊像と十六羅漢像が安置されている。

旧台徳院霊廟惣門

台徳院（二代将軍秀忠）の霊廟の表門です。台徳院霊廟は増上寺の本堂の南側に、寛永９年（１６３２年）に造営されたもので２代将軍秀忠の霊廟です。増上寺の徳川家霊廟の中で、最も規模が大きく、荘厳な建築群を誇っていました。

しかし、昭和２０年の戦災で多くの建物が焼失して、焼失を免れたのは、惣門　勅額門　御成門　丁字門のみで、惣門がここに保存されています。（これ以外は狭山不動尊へ移築され現存）

旧台徳院霊廟惣門の脇に仁王像があります。左右に安置されて、寄木造り、方形の台座に乗った岩坐の上に立っています。由緒については明確ではありませんが、平成になり、体内から修理名盤が発見され、元は埼玉県北足立郡戸塚村（現在の川口市）の西福寺仁王門に安置されたもので寛政元年（１７８９年）に修理されたことが判明しました。１８世紀前半までに江戸の仏師により制作されたと推測されます。昭和３３年ころまでにこの惣門に安置されたとされています。

旧台徳院霊廟惣門

東京都指定有形文化財

経蔵

慶長１０年（１６０５年）に創建され、天和元年（１６８１年）１２月に改造移築し、さらに享和２年（１８０２年）に現地に移転しました。白壁土蔵造、四方に銅葺の裳階（もこし）を配し、大屋根は宝形造、内部中央には八角形の回転できる回転できる木造輪蔵を安置しています。家康から寄進された大蔵経が格納されていました。（現在は別に保管）

平成１７～１８年にかけて半解体修理を行い現在に至っています。

港区指定文化財

黒門（旧方丈門）

もとは増上寺方丈の表門でしたが、昭和５５年（１９８０年），善導大師１３００年遠忌を期に表側の垂木（たるき）の大部分と東側の破風板（はふいた），瓦の一部を補修し現位置に移築されました。門扉は破損が著しく取り除かれました。全体が黒漆塗であったため「黒門」と呼ばれています。

建造年代を示す棟札（むなぶた）などの記録は見出せませんが、様式から１７世紀後半のものと推測されます。

黒門

増上寺景光殿（旧広書院）表門

大殿（本堂）裏手西側に位置します。形式は、一間一戸の四脚門で、屋根は桟瓦葺です。正面の蟇股（かえるまた）には表裏画面に三葉葵の門が刻まれ、側面の蟇股は内側のみに葵紋が彫られています。また、鬼瓦と留蓋（とめふた）瓦にも葵紋が付されています。

両開きの桟唐戸（さんからど）の上部欄間（らんま）は右側には「雲に月」、左側には「海に日の出」をモチーフにした透彫の彫刻が施されています。１８世紀初期の建造とされています。

港区登録文化財として

「鋳抜門（いぬきもん）」：江戸中期の１７１３年に文昭院（六代将軍家宣）霊廟奥院中門として建立。現在は徳川将軍墓所入口に在り。

「水盤舎」：三代将軍家光の三男、甲府宰相綱重の御霊屋に会ったもので徳川家霊廟の建造物として現存する数少ない遺構として貴重。（三解脱門を入り、前方左すぐ）

・・・

徳川将軍家墓所

かつて、厳粛且つ壮麗な霊廟群が増上寺大殿（本堂）の南北に立ち並び、その壮大さは日光東照宮に引けを取らないものであったが、昭和２０年に二度の空襲があり、３月１０日に北廟６８棟、５月２５日に南廟２８棟が被災、建造物群のほとんどが焼失した。これらに祀られていた遺体は、昭和３３年（１９５８年）に調査発掘され、その後桐ケ谷斎場で火葬された。墓所は現在の安国殿裏手に移転している。

被葬者は下記の通り

・２代将軍　秀忠夫妻（台徳院・崇源院）
・６代将軍　家宣夫妻（文昭院・天英院）
・７代将軍　家継（有章院）
・９代将軍　家重（惇徳院）
・１２代将軍 家慶（慎徳院）
・１４代将軍 家茂（昭徳院）
・家茂夫人和宮（静寛院）・・家茂墓の前
・合祀：家宣の父・綱重（清揚院）、５代将軍綱吉の生母・桂昌院、１１代将軍家斉の正室・広大院、１３代将軍家定の正室・天親院、家宣の側室・契真院、家慶の側室・見光院と殊妙院。
その他３５名の将軍家ゆかりの子女が合祀されている。

徳川将軍家墓所

その他重要な建造物

大殿（だいでん）

境内の正面の石段を昇りつめた二階に本堂、三階に修行道場、一階に檀信徒控室、地下一階に宝物展示室がある。本堂には、室町期作の阿弥陀如来、両脇段に高祖善導大師と元祖法然上人の像が祀られています。昭和４９年（１９７４年）戦災によって焼失したものを再建した。

地下一階の**宝物展示室**、狩野一信筆五百羅漢図をはじめ数々の什物を展示しています。二代将軍秀忠の御霊屋の模型は一見の価値あり。

安国殿

平成22年（２０１１年)、安らかな国づくりを祈念し、老朽化した旧堂宇にかわり建立。

堂内には恵心僧都の作と伝えられる秘仏黒本尊（阿弥陀如来像）が祀られている。黒本尊は家康公が尊崇し、その加護により度重なる災難を除け、戦いの勝利を得たという。

鐘楼堂

寛永10年（１６３３年）建立当時のものは戦災で焼失、現在のものは戦後に再建された。**大梵鐘**は延宝元年（１６７３年）のもの、江戸三大名鐘の一つとされる。現在も朝夕二回撞かれる。

圓光大師堂

総本山知恩院より法然の御廟の御浄砂を拝領，御身柄と命名した。御身柄は内陣奥の厨子に，経筒型の五輪塔に納められています。堂は平成２１年（２００９年）竣工。

光摂殿（こうしょうでん）

平成12年（２０００年）道場として完成。一階に講堂、三階に大広間がある。大広間の格天井には当代の日本画家１２０名によって描かれた草花図が奉納されています。

愛宕神社

愛宕神社(あたごじんじゃ)は、東京都港区愛宕一丁目にある神社である。山手線内では珍しい自然に形成された山である愛宕山(標高 26m)山頂にある。京都の愛宕神社が総本社である。防火・防災に霊験のある神社として知られる。
1603 年 (慶長 8 年)、徳川家康の命により創建。また、徳川家康が信仰した勝軍地蔵菩薩を勧請し、愛宕神社を創建。同神社の本地仏として別当寺の円福寺に祀ったことにはじまる。明治の廃仏毀釈により円福寺が廃寺になると、勝軍地蔵菩薩像は近くの真福寺に移されたが関東大震災で焼失。1934 年の弘法大師 1100 年御遠忌記念として銅製で復元され、現在は、1997 年に建設された真福寺・愛宕東洋ビル一階外側に祀られている。

◆「祭神」

- 主祭神
  - 火産霊命(ほむすびのみこと)
- 配祀
  - 罔象女命(みずはのめのみこと)
  - 大山祇命(おおやまづみのみこと)
  - 日本武尊(やまとたけるのみこと)
  - 将軍地蔵菩薩(しょうぐんじぞうぼさつ)
  - 普賢大菩薩(ふげんだいぼさつ)
  - 天神社(てんじんしゃ)

◆「23区内で一番高い山」

愛宕神社がある愛宕山は標高 25.7 メートル。出世の石段を登り切った右手には、山の証しである三角点があります。天然の山としては、これは 23 区内で一番の高さ。
現在のように高層ビルが建ち並ぶ前の江戸時代には、見晴らしの名所として、見物客で賑わいました。山から東京湾や房総半島までを見渡すことができと言われています。
因みに一番高い山というのは、自然地形でなおかつ"山"と言われるもの。新宿区の箱根山は 44.6 メートルですが、こちらは人造のため、自然地形では愛宕山が 23 区内で一番高いということになります。

◆「出世の石段」

愛宕神社に上がる急な石段は「出世の石段」と呼ばれています。
その由来は講談で有名な「寛永三馬術」の中の曲垣平九郎（まがき・へいくろう）の故事にちなみます。
時は寛永１１年、江戸三代将軍、家光公が将軍家の菩提寺である芝の増上寺にご参詣のお帰りに、ここ愛宕神社の下を通りました。
折しも春、愛宕山には源平の梅が満開。家光公は、その梅を目にされ、「誰か、馬にてあの梅を取って参れ！」と命ぜられました。
しかしこの愛宕山の石段はとても急勾配。歩いてのぼり降りをするのすら、ちょっと勇気が必要なのに、馬でこの石段をのぼって梅を取ってくることなど、とてもできそうにありません。
下手すれば、よくて重傷、悪ければ命を落としそう。家臣たちは、みな一様に下を向いております。
家光公は、みるみる機嫌が悪くなり、もう少したてば、怒りバクハツ！というそのときに、この石段をパカッ、パカッ、パカッとのぼりはじめた者がおりました。家光公。その者の顔に見覚えがありません。

「あの者は誰だ」
近習の臣に知る者はありません。
「おそれながら」
「おう」
「あの者は四国丸亀藩の家臣で曲垣平九郎（まがき・へいくろう）と申す者でございます」
「そうか。この泰平の世に馬術の稽古怠りなきこと、まことにあっぱれである」
平九郎は見事、山上の梅を手折り、馬にて石段をのぼり降りし、家光公に梅を献上いたしました。
平九郎は家光公より「日本一の馬術の名人」と讃えられ、その名は一日にして全国にとどろいたと伝えられております。

（平九朗が家光公に献上した言われる梅の木）

※2014 年から楽天から提案を受け、１月４日など特定の時期のみ電子マネー（Edy）による賽銭も受け入れている。

【ＮＨＫ放送博物館】

1925（大正 14）年 3 月 22 日朝 9 時 30 分、東京芝浦の東京放送局仮放送所から、日本のラジオ第一声が流れました。
アナウンサーは、JOAK を「ジェーイ、オーウ、エーイ、ケーイ」と遠くに呼びかけるように読み上げました。
このあと、初代総裁の後藤新平があいさつし、ラジオの機能として文化の機会均等、家庭生活の革新、教育の社会化、経済活動の活性化を強調しました。
そして 7 月、今度は愛宕山で本放送が始まり、愛宕山は“放送のふるさと”と呼ばれるようになりました。
NHK 放送博物館は、1956 年に、世界最初の放送専門のミュージアムとして、“放送のふるさと”愛宕山に開館しました。

（NHK 放送博物館ホームページより）

ご自由にご見学ください。

本日は、企画展「ヒロインたちの肖像　連続テレビ小説ポスター展」が 3 階企画展示室で開催されています。

【ＮＨＫ】

日本放送協会（にっぽんほうそうきょうかい、英称：Japan Broadcasting Corporation）は、日本の公共放送を担う事業者。日本の放送法（昭和 25 年法律第 132 号）に基づいて設立された放送事業を行う特殊法人。総務省（旧・郵政省）が所管する外郭団体である。

公式略称は、「NIPPON HOSO KYOKAI」の頭文字を取り「ＮＨＫ」と呼称・記される。

NHK は放送法に基づく特殊法人として 1950 年に設立された。設立目的は、放送法により「公共の福祉のために、あまねく日本全国で受信できるように豊かで、且つ良い放送番組による国内基幹放送を行うと同時に放送およびその受信の進歩発達に必要な業務を行い、合わせて国際放送および協会国際衛星放送を行うこと」とされている。また、同法の規定により 1926 年に設立された社団法人日本放送協会の業務を継承している。なお、社団法人日本放送協会は、1925 年に日本で初めて放送業務を開始した社団法人東京放送局、社団法人名古屋放送局、社団法人大阪放送局（現：NHK 放送センター、NHK 名古屋放送局、NHK 大阪放送局）の業務を統合して設立されたものである。

NHK の主たる事務所は東京都渋谷区に置かれる。NHK は特定地上基幹放送事業者かつ衛星基幹放送事業者であり、国内放送および内外放送の放送番組の編集にあたっては、公安および善良な風俗を害しないこと、政治的に公平であること、報道は事実を曲げないですること、意見が対立している問題についてはできるだけ多くの角度から論点を明らかにすることが求められる。

（Ｗｉｋｉｐｅｄｉａより引用・抜粋）

【ご参考】見学先周辺地図（本日は赤い点線のコースではありません）